

郷黨又之を稱揚す。且つ許嫁の婦にして、其夫死するときは、一生獨身にて終り、父母再嫁を勸むるも肯んぜず。斯の如く或意味に於ては實に賞すべき風あるも、虚禮に流るゝもの少なからず、甚しきは、家長の死するや、其家族は寡婦に逼りて自殺せしめ、以て旌表の榮を得るを誇るものありと云ふ。又婚儀は、費用の多きを競ひ中外に誇るの風あるは、支那一般の風習とす。

## 第七節 家庭

纏頭回と  
妻子

纏頭回は、數妻を娶るの風あるも、貧者は一妻に甘せり。故に家庭は單純とす。然れども稍、富む者は、二妻より三四妻を有し、數妻中、長妻一人ありて家事を總理し餘妻及家内の子女皆之に隸屬す。

哈薩克と  
妻子

・哈薩克族は、回部人よりも甚しき多妻主義にして、其の富む者は、妻妾合せて十餘人を有する有り。戸主は時々家内の若干部を長妻に託し、自らは年少の婦女子を率ゐて遠く數十里外に分牧すること屢、之れ有り。然れども、冬籠の時に至りては復た必ず相會す。是等部族の家庭に於て、若し本夫死するときは、其の妻は皆亡夫